



竹内宏二(たけうち ひろし)
(株)竹内商店代表取締役社長。札幌狸小路商店街振興組合理事長。札幌中心部の商店街による活性化協議会を通じて自発的なまちづくりに取り組む。

多様なニーズに応えられる店づくりが街の風景を変えていく。

小林 そうしたものを、市民と行政とがパートナーシップをもってこれからの協働でつくっていくかなければならないのだと思います。協働というのは何か一つのことについて労働を半分ずつ分担してやるということばかりではなく、例えばハードやインフラストラクチャーをつくるのが得意な行政と、楽しくそれを使うのが得意な市民とが一緒になって何かをやることだとも思います。

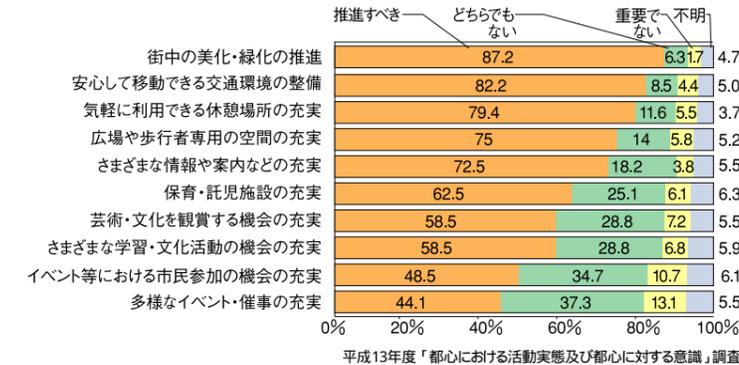
協働でつくるまちの顔

森下 イベントプロデューサーの立場から言うと、今の日本では街の中でそことTMOが街を育てていくことになっています。森下 行政と市民が話したり、事を進めていったりする上で、間に誰かコーディネーターがいるのは重要なことでしょう。これからのパートナーシップの在り方で言うと、何かやるうとしていてる人に対していきなり支援するのではなく、いろいろな枠組みを用意しておいて、お互いがうまく生かしかし合える、市民の力が生かせるような協働の仕方を生み出していくとよいと思います。

竹内 最近TMOが札幌にできました。まちづくりのいわばコーディネーター制度です。これから大通、駅前、すすきの地区にそれぞれ活性化協議会というような機関をつくって、

竹内 商店街でも個性を生かした自由で面白い店づくりに各店がもっと取り組んでいくべきだと思っています。多様なニーズに応えられる店づくりが街の風景も変えていく。小林 都心の商店街は、十代の若者やシルバー世代といわれる人たちのニーズ、そして世界から訪れる人々が世界都市の質として求めるものに心えられるようなセンサー(感知器)を持つことが必要ですね。竹内 そういう面でタウンマネージャーを必要としているのが現状です。し、本当に真剣にそうした意見を聞いていきたいと思っんです。森下 世代の異なる人たちが異業種の人たちの声をすくい上げるのは意外と難しいのですが、とにかく直接

市民アンケート調査③ 今後取り組んでほしいこと



人から話を聞くことが大切です。せっかく札幌市の中にも都心まちづくり推進室というパブリックマネージャー的役割を担うところがあるので活用してください。市民の側がそれぞれ自分たちに関係ないと思わないで、どんどん接触してみればいいんです。日本はまだまだ行政の活用の仕方が上手じゃない。行政の側にももっとアクセスしやすい、オープンな姿勢を示してほしいと思いますね。



都市としての基盤はできた。これから街をどう使うのか。

小林英嗣(こばやし ひでつぐ)
北海道大学大学院 都市空間計画学研究室 教授。札幌市都市景観審議会会長。札幌市・都心まちづくり計画策定協議会座長。北海道都市計画審議会会長などを務める。

な基盤づくりをおおむね終え、これから街をどう使うのか、市民の生活や魅力的な活動が行いやすい街へと変えてゆくの、ということを考えてる段階にきているのだと思います。

小林 ヨーロッパの都市よりも、札幌の歴史は比較的オーストラリアやアメリカの都市に似ているといえます。そうした街の人々と、札幌の市民が違うのは、彼らは街の使い方がものすごくつまい、ということですよ。五十〜六十万人の都市の大通公園のようなところでも、オペラをやったとか、とにかくみんな街を使うすべを知っているし、そうした使い方が許されているんですね。

森下 イベントプロデューサーの立場から言うと、今の日本では街の中でそことTMOが街を育てていくことになっています。森下 行政と市民が話したり、事を進めていったりする上で、間に誰かコーディネーターがいるのは重要なことでしょう。これからのパートナーシップの在り方で言うと、何かやるうとしていてる人に対していきなり支援するのではなく、いろいろな枠組みを用意しておいて、お互いがうまく生かしかし合える、市民の力が生かせるような協働の仕方を生み出していくとよいと思います。

森下 イベントプロデューサーの立場から言うと、今の日本では街の中でそことTMOが街を育てていくことになっています。森下 行政と市民が話したり、事を進めていったりする上で、間に誰かコーディネーターがいるのは重要なことでしょう。これからのパートナーシップの在り方で言うと、何かやるうとしていてる人に対していきなり支援するのではなく、いろいろな枠組みを用意しておいて、お互いがうまく生かしかし合える、市民の力が生かせるような協働の仕方を生み出していくとよいと思います。

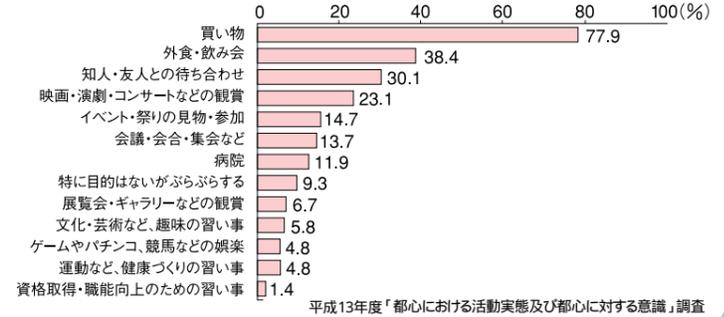


森下慶子(もりした ゆき)
(株)ケーピー代表取締役。日本都市計画家協会理事。イベントプロデューサーとして、「国際花と緑の博覧会」「黒部市アクアパークモデル事業計画」などの各種イベント、都市づくり、まちづくりなどの企画、制作、運営にかかわる。

札幌は新しい街。いろいろなものを受け入れ、新しい文化を生み出してほしい。

のイベントが非常にしづらいです。さまざまな規制が厳し過ぎて。そうした中でYOSAKOIソーラン祭りなんかは札幌発の立派なサブカルチャーの一つだと思いますよ。竹内 札幌は歴史の浅いこともあって、豊かな経験や知恵を生かしたイベントやアドバイザーとなれる、旦那」というものがいないんですね。歴史のある街では昔から旦那が祭りや行事の面倒を見てきたのですが。それと今の札幌都心について言うと、森下さんの言われるようにちょっと街を使おうとすると大変な規制があります。われわれの責任と義務はきちんとルール化して負うべきなのは当然ですが、もつと市民が使えるようにしていくべきだと思います。

市民アンケート調査② 都心へ行く目的(通勤・通学以外)(複数回答)



*1サブカルチャー 社会の主流の文化ではなく、ある特定の集団だけが持つ文化的価値や行動様式。
*2インフラストラクチャー 道路・鉄道・港湾・ダムなど産業の基盤となる社会資本のこと。